

パーフェクトセット 取り扱い説明書

(TYPE / PST-SBKG3-26A1)
(TYPE / PST-SBKG2VD)



写真は移動機での組み立て参考図です。
お好みの状態で各部をセットして頂いても結構です。

〒600-8885 京都市下京区西七条南月読町 71-6

株式会社 サン京都

TEL (075) 315-2808(代) FAX (075) 321-1895

目次

○ 基本机	組み立て方法	P 3
○ ガン掛け	組み立て方法 ①	P 3
○ ドライヤースタンド	組み立て方法	P 4
○ ガン掛け	組み立て方法 ②	P 5
○ 薬品棚	設置方法	P 5
○ スチームガン掛け	設置方法	P 6
○ 吸引台	設置方法	P 7
○ 照射ランプ	取付方法	P 9
○ シルクビートガン	接続方法(標準型)	P 10
○ 〃	接続方法(非連動型)	P 11
○ 吸引機本体	設置方法	P 13
○ 〃	メンテナンス	P 15
○ 〃	故障かなと思う前に(パキュームシステム編)	P 18
○ シルクビートガン	説明書	P 19
○ 〃	故障かなと思う前に(シルクビートガン編)	P 23

【仕様】

吸引機本体	1050W/100V
ドライヤースタンド	1200W/100V (HIの場合)
シルクビートガン	40W/100~220V × 2台
ハンディースチームガン	40W/100V (オプション)
パワースチームガン	60~500W(起動時)/100V (オプション)

【設置必要寸法】

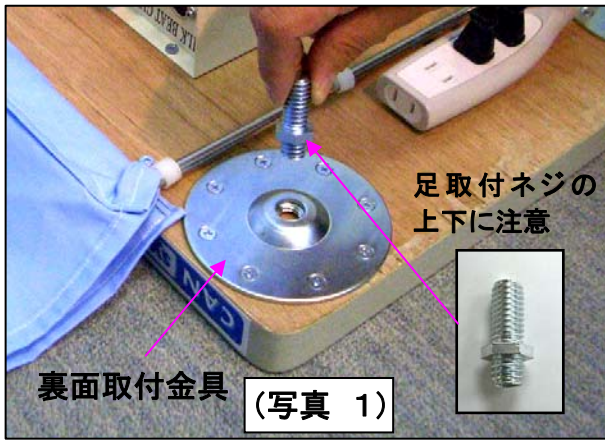
- 【机600×1200】 幅1370mm × 奥行680mm × 高さ1770mm

【付属品】

- 排気ホース7m (内径38φ、外径45φ)
- 水用ポリタンク(4L) × 1
- 各種薬品 (No.0一般油性) (No.1特殊油性) (No.2水性タンパク) (No.3水性タンニン)
- ◎ (No.104-A・B・C黄変抜き用) (オプションにてスチームガンを追加された場合)
- 六角レンチ
- インシュロック

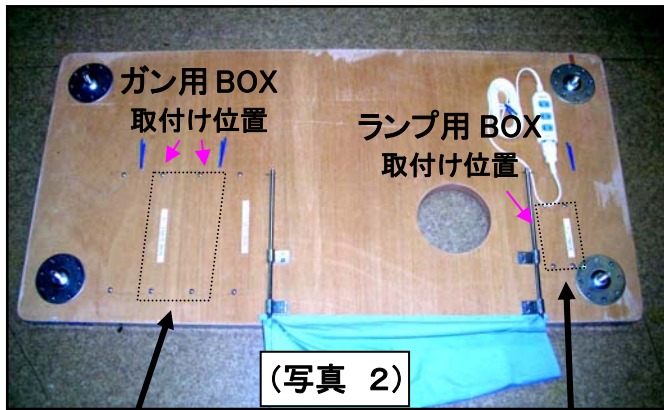
【その他必要品】

- エアホース … 内径4mm×外径6mmウレタンチューブ使用(別売)
(オプションにてエア付ガンに変更された場合)



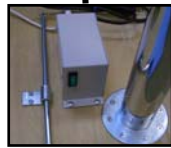
【机组立方法】

- ① 初めに足取付ネジを機の裏面取付金具に**上下の向きに注意**して、17mmのレンチ等で確実に締め付けて下さい。(短い方が裏面取付金具) (写真1参照)
 - ② その後に足を取付けます。
- ※ 足の下に付いているアジャスターで高さ調整が出来ます。

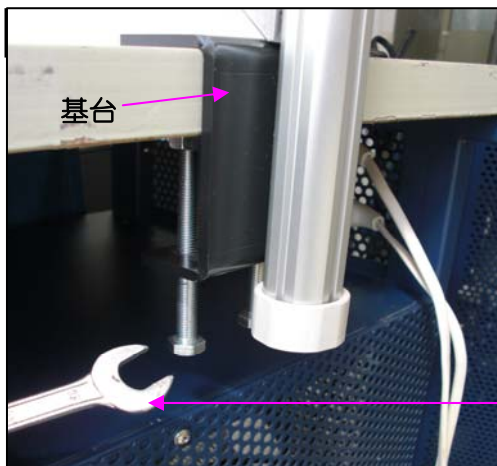


【コントロール BOX 取付方法】

- ① 机裏の指示してある場所に、ガンコントロール及び照射ランプ電源BOXの前面が机の手前側に向くように付属のビスで取り付けます。(写真2)



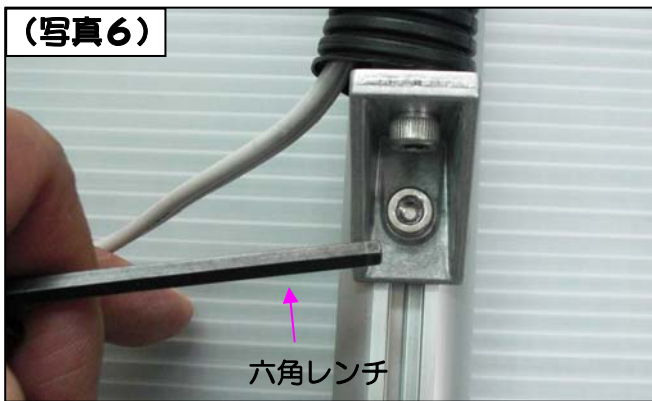
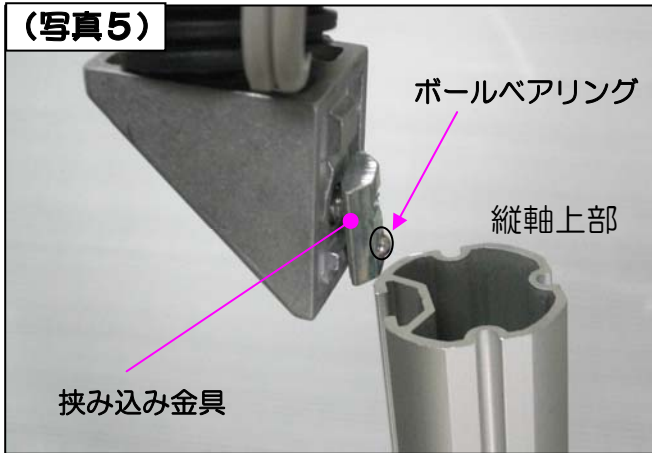
【ガン掛け 組み立て方法 ①】



- ① 基台に縦軸を取り付けてある3本のネジを緩める事により、縦軸が上下に移動でき、ガン掛け全体の高さを任意に設定できます。(写真3) (基台を机に取り付ける前に調整して下さい)
- ② 基台を機の任意の場所に **13mm スパナ**等を使用して、固定ネジで確実に取付けて下さい。(写真4)

固定ネジ
13mm スパナ

【ドライヤースタンド 組み立て方法】



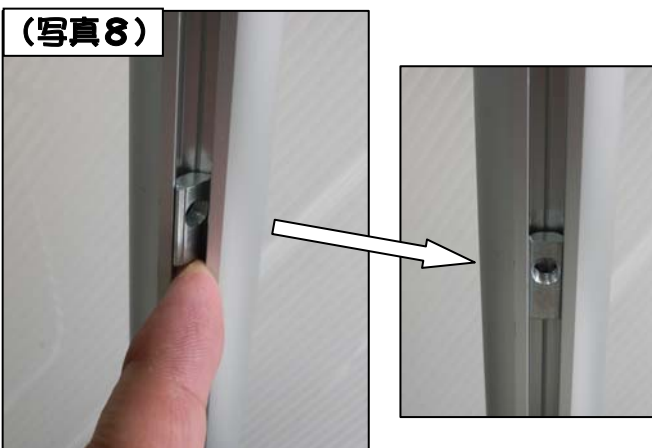
— ガン掛け上部の横軸取付け前 —

- ① 縦軸の上方より、ドライヤースタンドの取り付け土台と挟み込み金具との間に縦軸の溝を滑り込ませるようにして差し込みます。(写真5)
- ② 任意の高さまで下ろしたら、付属の六角レンチにてしっかり固定します。(写真6)

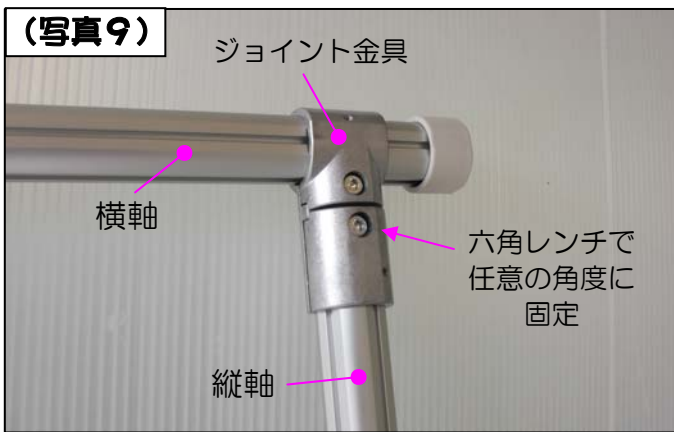
- ドライヤースタンドのコードをフットスイッチのコネクターに一度接続してから、机裏の100Vのコンセントに差し込んで下さい。
(バキューム本体と一緒にコンセントにならないように注意してください。)
- ドライヤーのスイッチはONの状態にしておきフットスイッチでON/OFFして御使用下さい。
(通常はHOT/HIの状態が、乾燥が早く使い易いと思われます。)

— ガン掛け上部の横軸取付け後 —

- ① 写真5のドライヤースタンドの取り付け土台に付いている挟み込み金具(写真5)を取り外し、ボールベアリングが付いている方を縦軸の溝の中側に入るように差し込みます。(写真7)
- ② この時、挟み込み金具落とさないように溝の下方に指を入れて金具が落ちないようにします。(写真8)
- ③ 細い棒のようなもので金具を真っ直ぐに入れ直します。(ボールベアリングが効いてますので金具は落ちません。)
- ④ 六角レンチを使用して金具にドライヤースタンドの取り付け土台をしっかり固定します。(写真6)



【ガン掛け 組み立て方法 ②】

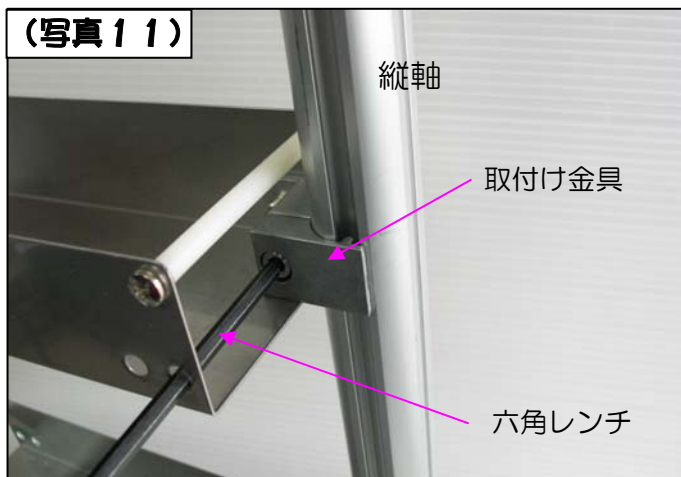


① 横軸に取り付けてあるジョイント金具を縦軸に差込み、六角レンチを使用し任意の角度で固定します。(写真9)

② 横軸に取り付けてあるガン掛けフックは、用途に合わせて左右に移動できます。(写真10)

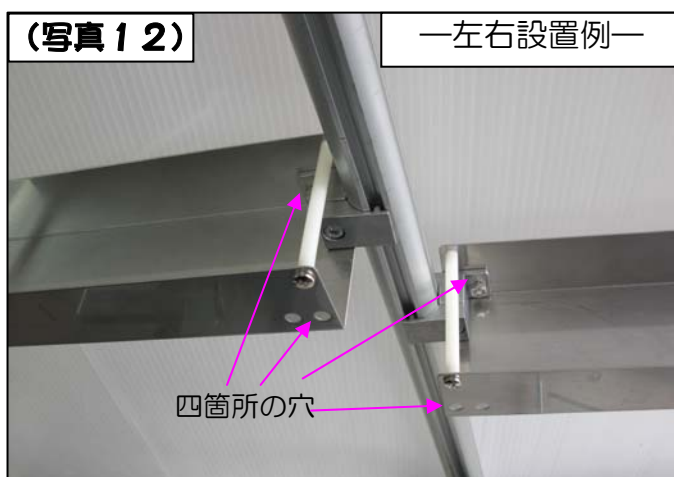


【薬品棚 設置方法】



① 取付け金具を縦軸の任意の位置に挟み込み、六角レンチを使用して薬品棚をしっかり固定します。(写真11)

薬品棚は、棚の四箇所(穴)を利用して前後左右お好きな状態に取り付ける事が出来ます。
(写真12参照)



【ガン掛け 組み立て方法 ②】 (オプションでスチームガンを追加された場合)

(写真13)

ネジの切ってある方が、棒に対して逆方向に来るように。

スチームガン掛け棒

① 縦軸の任意の位置に任意の方向へスチームガン掛けを取り付けます。(写真13~15)
(写真は向かって右側に取り付けた例です)

② 写真13~15の様に網棚に掛けて使用するか、または付属のステン板を机の任意の場所に張りつけて、スチームガンの底のマグネットを立ててご使用下さい。

③ スイッチ部を付属のインシュロックで、シルクガン掛けの縦軸に固定して下さい。(写真16)
(スイッチ部のパイロットランプが確認できて消し忘れを防げます。)

(写真14)

噛み合わせ部

(写真16)

スイッチ

(写真15)

ネジ無し金具

ネジ有り金具

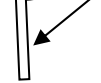
スチームガン掛け棒



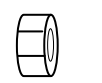
ナット



ワッシャ

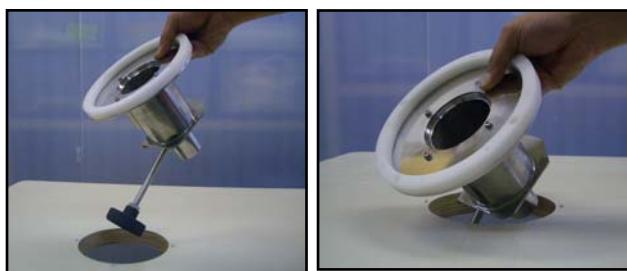


ワッシャ



ナット

【吸引台 設置方法】



- ① 写真17を参考に机の上方より埋込型吸引台を穴に落とし込んでください。
- ② 中心吸引口上下レバーが机の手前に来るようにセットして、上から付属のビスで机に固定して下さい。この時、締め付けが甘いと吸引台の上に上部移動メッシュを置いた時にお互いが干渉してスムーズに動かなくなる場合がありますのでご注意ください。

【吸引台使用方法】

- ① 吸引台本体の上に移動メッシュを置きます。
- ② 中心口上下レバーのノブを左回り(時計と逆方向)に回して、中心吸引口が上部移動メッシュに当たる状態まで上げて、ノブを右回りに回して固定します。(写真18)
- ③ 基本的には埋込吸引台の中心吸引口が上部移動メッシュに当たった状態(上に上がった状態)でシミ抜き作業します。



中心吸引口が
上に上がった状態

中心吸引口が
下に下がった状態



(写真 19)

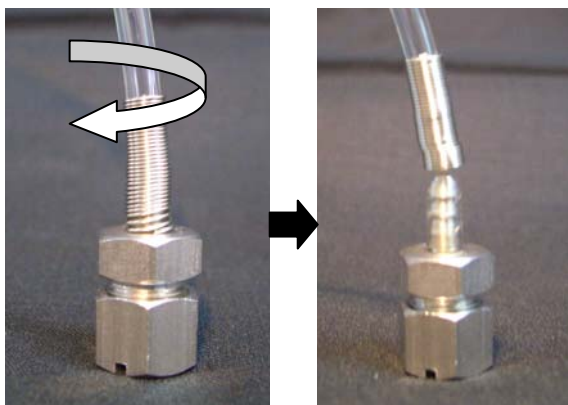
【ビートガン設置方法】

- ① ガン掛けのフックにバランスーを吊るしてからシルクビートガンを取付けて下さい。
- ② **メッシュ台迄とどくか確認しながら**、ガン掛けの軸にコードとホースを付属のインシュロックで固定して下さい。(写真 19)

注意

インシュロックを強く締めすぎると、ホースに圧がかかり、液が出なくなる事が有りますのでご注意ください。

- ③ 付属のリングを使用して、コード・ホースをバランスーのワイヤーに沿わせるように止めて頂くと作業時に邪魔にならずに便利です。
- ① ガンより出ているホースの先端は付属の水用タンク及び溶剤用缶に直接入れて下さい。



(写真 20)

{ホース先端ストレナー}

シルクガンのホースを任意のタンク又は一斗缶の穴空きキャップに通される場合は、(写真11)を参考にストレナーとホースの接続部のスプリングを時計回転させながら引き抜いた後、ホースを引き抜いて下さい。(写真 20)
ホースに取付ける場合は逆の手順で行って下さい。



右に回すと
引上げ力が
強くなります



引きながら
左に回すと
引上げ力が
弱くなります



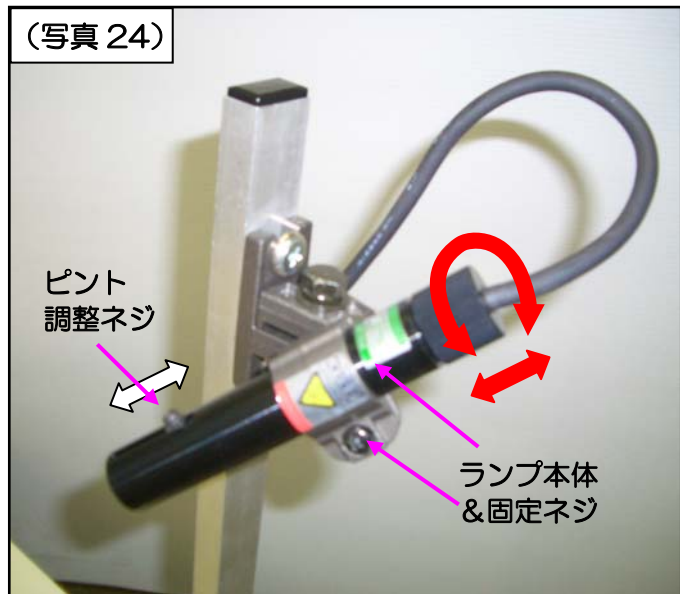
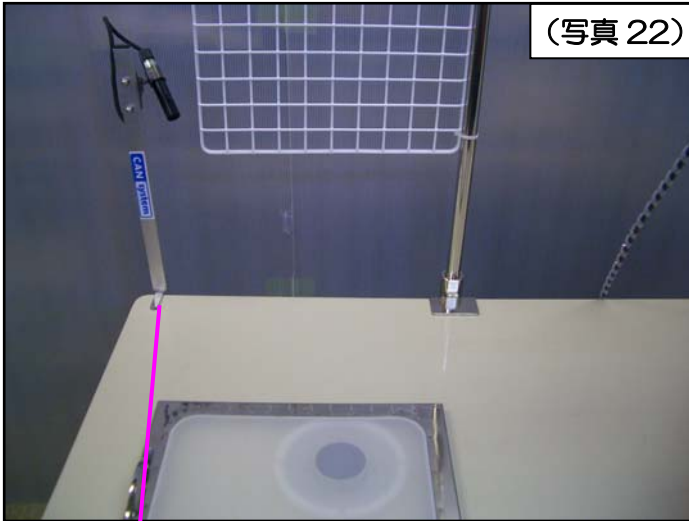
(写真 21)

【バランスー調整方法】

バランスー裏面のダイヤルを右へ回すと、引き上げる力が強くなり、また逆にダイヤルを引きながら左へ回すと弱くなります。(写真 21)
用途に合わせて調節して御使用下さい。

【照射ランプ取付方法】

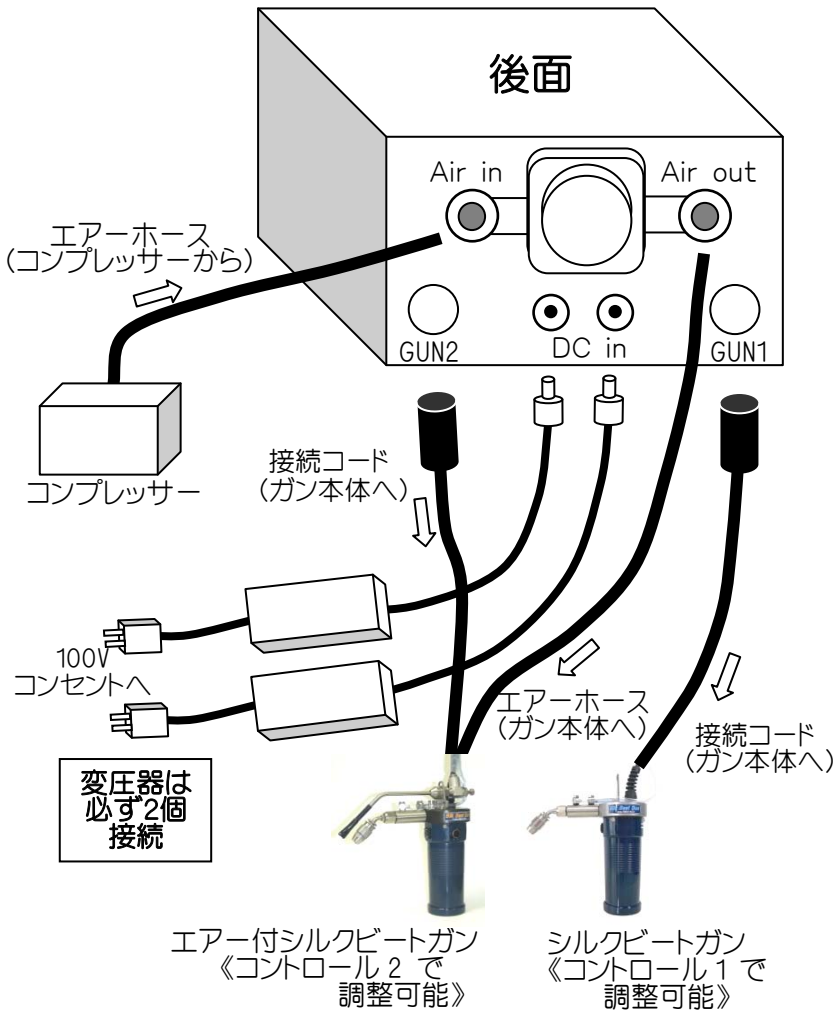
- ① 写真14を参考に、机の左奥の位置に照射ランプを取付けます。(写真 22)
- ② ランプ本体より出ている電気コードを、机下のコントロールBOXに接続します。(写真 23)
- ③ ランプの電源を入れて、埋込式吸引台の中心吸引口に対して、ランプの丸が出来るだけ真円に近づくように固定ネジを緩めてランプ本体を回転又は上下させて調整してから、再度固定ネジを締め付けて固定いたします。(写真 24)
- ④ ピント調整ネジを、六角レンチで緩めてから前後に動かして最もはっきり映るように調整します。(写真17)



ビートガン 接続方法 ①

— 標準型BOX（オプションにてエア付追加）の場合 —

(図 25)



【ビートガン接続方法】

- ① コントロールBOX裏面のDC INのコネクターに付属の変圧器を必ず2個接続して下さい。
- ② GUN 1及び2のOUT PUTコネクターにBOX表面のコントロールボリュームで調整するそれぞれのビートガンの電源コネクターを接続して下さい。
(GUN2はエア付 <主に水性>)
- ③ エア付の場合は、(図 25)を参考にして間違わないように接続して下さい。
シルクビートガンとコンプレッサーの接続は4×6のウレタンチューブ(別売)にて、コントロールボックス裏面のクイックジョイントに接続します。
クイックジョイントを変更すると他のホースでも使用可能です。(2分ネジ使用)

エアの圧力は5kgf/cm以下で御使用下さい。5kgf/cm以上ある場合は、減圧弁にて下げて下さい。
またエアの中に水が混ざっている場合はエアフィルターを付けて下さい。

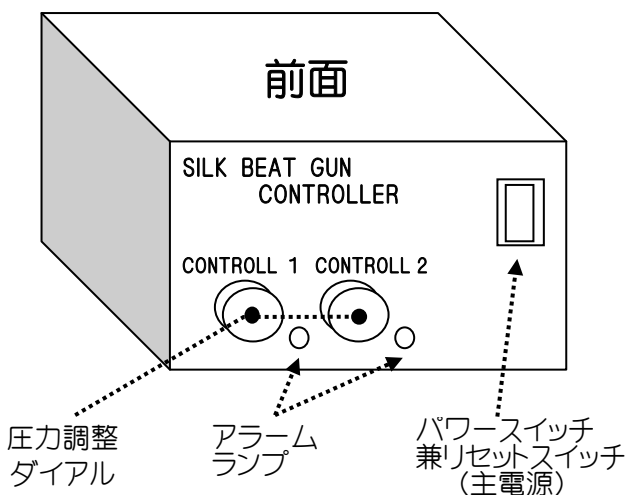
【使用方法】

- ① 前面のコントロールボリュームにて、各ガンの圧力を調整してご使用下さい。
- ② 何らかの形でBOXに異常が発生した場合は、各コントロールボリューム右横のアラームランプが点灯します
その場合は一度 Power Sw を OFF にして暫く経ってから電源を入れ直して下さい。
(POWER SW がリセットスイッチの機能も兼ねています) (図 21)

注意

一度リセットした後でも、頻繁にアラームランプが点灯する場合はBOXの異常が考えられますので、ご購入店又は弊社にご連絡頂きますようお願いいたします。

(図 26)



— 標準型BOXの場合は13ページへお進みください —

【シルクビートガンBOX 接続方法】 (連動型BOX)

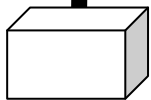
(ビートガン部)

- ① コントロールBOX裏面のDC INのコネクターに付属の変圧器を必ず2個接続して下さい。
- ② GUN 1及び2のOUT PUTコネクターにBOX表面のコントロールボリュームで調整するそれぞれのビートガンの電源コネクターを接続して下さい。
(GUN2はエア付【主に水性使用】)
- ④ エア付の場合は、(写真20)を参考にし、6×4のエアーホースを間違わないように接続して下さい。



(写真27)

(AIR IN)
コンプレッサー
からの
エアーホース
を接続
して
下さい



コンプレッサー

【注意】
ガン 1台使用時
でも、変圧器は
必ず2個接続
して下さい。

(AIR OUT)
ビートガンへ
行く
エアーホース
を接続して
下さい。



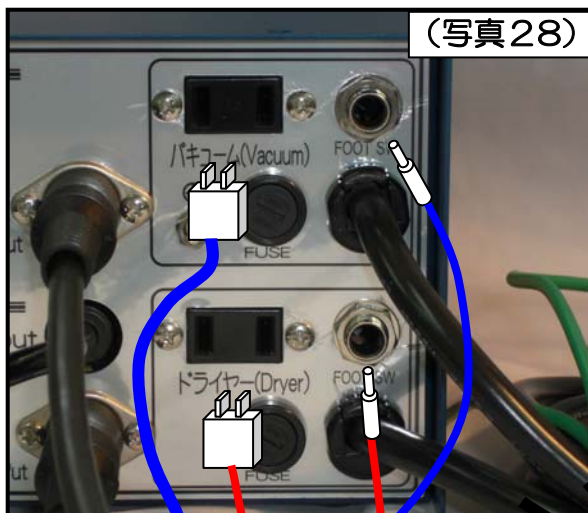
ビートガン

(バキューム・ドライヤー部)

- ① コントロールBOX裏面のバキューム用コンセントに、バキューム本体より出ている100Vの電源コードを接続して下さい。
- ② バキューム用コンセント右横のフットスイッチ端子に、付属のフットスイッチを接続して下さい。
- ③ 上記と同様に下段のドライヤー用のコンセント及びフットスイッチ端子にもドライヤー及びドライヤー用フットスイッチを接続して下さい。
(写真28 参照)

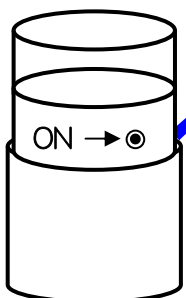
注意

接続した機器の電源スイッチはONの状態にしておいて下さい。

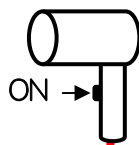


(写真28)

バキューム本体



ドライヤー



フット
スイッチ

机裏の
コンセントへ

【シルクビートガンBOX 操作方法】 (連動型BOX)

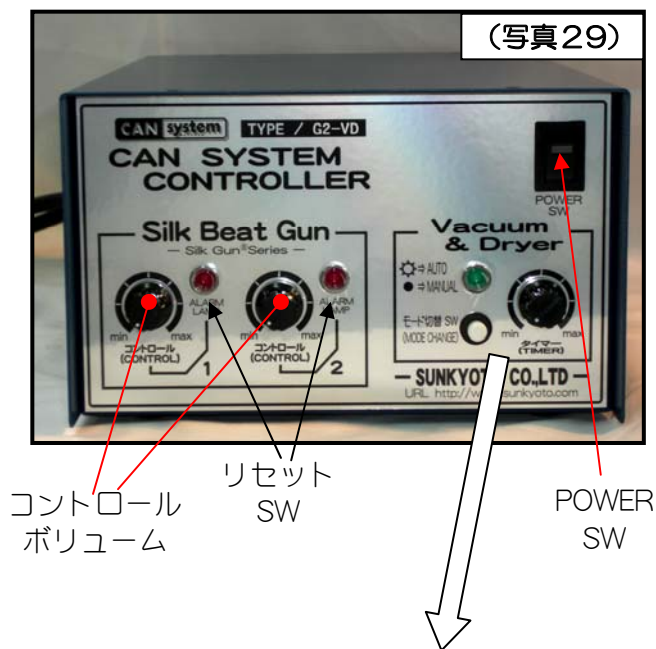
(ビートガン部)

- ① 前面のコントロールボリュームにて、各ガンの圧力を調整してご使用下さい。
- ② 何らかの形でBOXに異常が発生した場合は、各コントロールボリューム右横のアラームランプが点灯します
その場合は一度 Power Sw を OFF にして暫く経ってから電源を入れ直して下さい。
(POWER SW がリセットスイッチの機能も兼ねています)

注意

一度リセットした後でも、頻繁にアラームランプが点灯する場合はBOXの異常が考えられますので、ご購入店又は弊社にご連絡頂きますようお願いいたします。

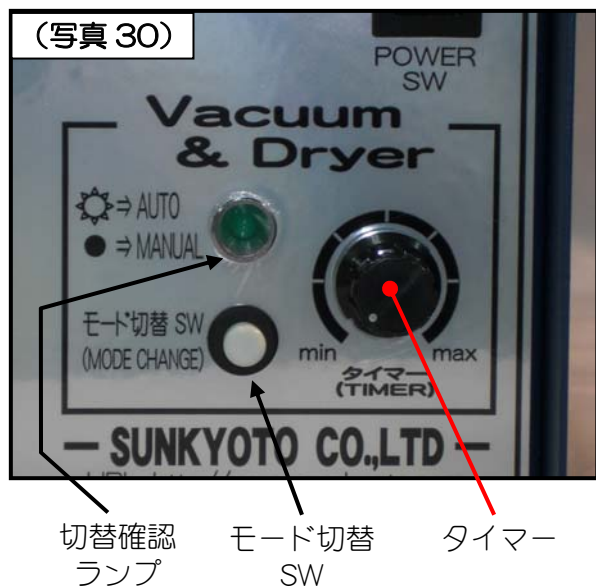
(写真29 参照)



(バキューム&ドライヤー部)

- ① モード切替 SW を押すと上の切替確認ランプが点灯しON(AUTO)になります。
- ② AUTOの状態ではガン又はエアのスイッチを入れるとバキューム&ドライヤーが同時に作動します。
- ③ ガンの操作を終えるとタイマーにより任意設定した時間後に自動的にバキューム&ドライヤーが切れます。

(写真 30 参照)



【 連動 BOX 操作特徴 】

AUTO MODE(連動) (モード切替 SW ⇒ ON)

- 1) ガン又はエアのSWを押すことによって、バキューム&ドライヤーが連動して作動します。
 - 2) ガン又はエアのSWを離れた後、タイマーによって設定した時間でバキューム&ドライヤーが自動的に停止します。
- ◎ AUTO MODE時でも、個別のフットスイッチにてバキューム&ドライヤーを別々にON/OFFをする事が出来ます。

注意

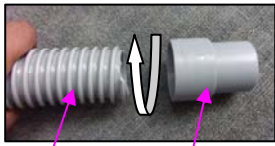
AUTO MODEでバキューム&ドライヤー作動時に、フットスイッチにて手動ON/OFFさせると、その機器に対しては一時的に手動モードになり、タイマーで設定した時間で停止しなくなります。
ただ、その状況でガン又はエアのSWを押すことによって自動的にAUTO MODEに復帰し自動停止するようになります。

【吸引機本体 設置方法】

(吸引側)

(写真31)

吸引口 ①
ホースを付けて吸引台と接続。



ホース

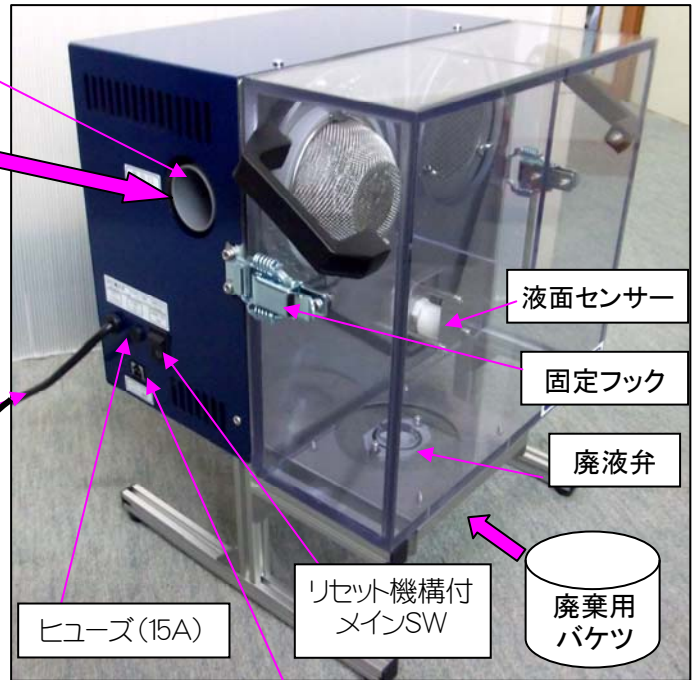
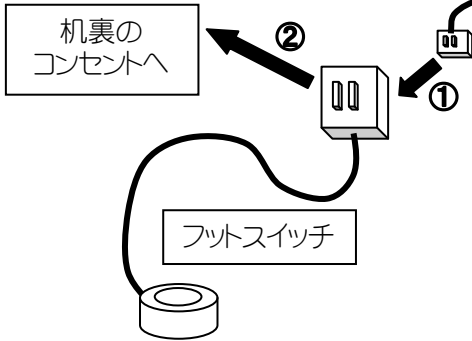
アダプター



アダプターを付けて
本体吸引口へ接続

電源コードは付属のフットスイッチに接続してから①
机裏のコンセントへ接続して下さい②。

(注意)ドライヤーの配線と同じコンセントに
ならないように!!



コントロールBOXと接続

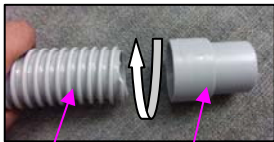


(排気側)

(写真32)

モーター冷却用 吸引口③
絶対にふさがらない様に注意!(週に一度の点検を)

臭気排気口 ②
ホースを付けて室外へ。

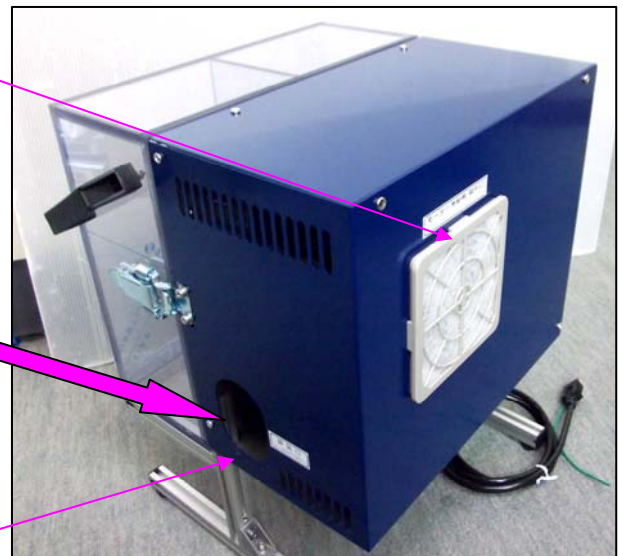


ホース

アダプター



アダプターを付けて
本体排気口へ接続



(排気ホースは、付属のインシュロックを使用して本体に固定します。)



予め本体側に付属のインシュ
ロックを通しておきます。



ホースにジョイントを付けて、
排気口に接続します。



ホースが抜けないように
インシュロックで固定します。

{ 電源接続 }

- ① 付属のフットスイッチのコネクターに一度差し込んでから、机裏の100Vのコンセントに接続して下さい。

ドライヤースタンドと併用される場合は、机裏の1つのコンセントに同時に差し込まず、吸引機本体とドライヤーのコードを2本別々のコンセントに差し込むようにして下さい。

(机裏コード1本の電気容量は計1500W迄の為、ドライヤー(1200W)と吸引機本体(1050W)を同時に差し込むと容量不足になります。)

- ② 吸引機本体のスナップスイッチはONにしておき、フットスイッチでON/OFFの操作をします。
- ③ 机に取り付けてある吸引カコントロールBOXのコードを吸引機本体に接続して下さい。
(コントロールBOXを接続しないと、吸引機本体は作動しませんのでご注意ください。)

吸引カコントロールBOX

【切替 SW】


MAX ⇒ モーターフル回転
調整 ⇒ 調整ダイヤルにより吸引力が調整可能(ランプ ON)

【便利な利用方法】

薬品塗布や色差し等の時は、切替 SW を調整の位置にしてモーターの回転を下げておき、その後洗浄時にはMAXの状態にして、モーターをフル回転にしてご使用下さい。
(調整ダイヤルを回して回転を上げる必要がありません)

(写真 33)

任意の位置に調整



{ ホース接続 }

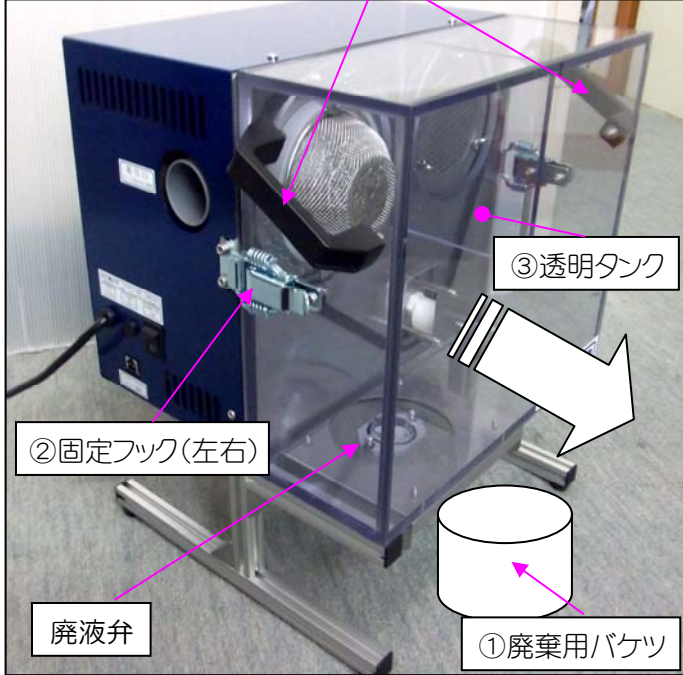
- ① 付属のホースを適当な長さに切って、アダプターに接続後(写真 31)の吸引口①に差し込み、吸引台と接続して下さい。
- ② 付属のホースをアダプターに接続後、(写真 32)の臭気排気口②に差し込み室外へ出して下さい。
ホースは出来るだけ短い方が吸引力が強くなります。
排気ホースはあまり上へ上げない様に、又、90°以上曲げない様にして下さい。
- ③ モーター冷却用 吸引口③(写真 32)は、モーター冷却装置の吸排気口になっていきますので、絶対にふさがないようにして下さい。
特にフィルターにはごみがたまりやすいので、週に一度の点検をして下さい。
(モーター焼付の原因になります。保証期間内でも保証対象外になります。)

{ タンク内の液体 }

- ① 吸引した液体は透明タンク内に一時溜まり、バキュームを停止させた時点で廃棄弁が開き下の廃棄用バケツに排出されます。
よって、廃棄弁が汚れていたりすると上手く排出できませんのでご注意ください。
(廃棄弁のメンテナンスについては別項をご参照下さい)
- ② 使用頻度によりますが、バケツが一杯にならないように、溜まった廃液は頻りに捨てて下さい。
- ③ 万が一廃棄弁が上手く働かず排出できない場合(A)や、吸引を長時間止めずに使用した場合等、吸引した液体がタンクの許容量を超えると安全センサーが働きモーターが自動でストップします。
A) 廃棄弁が上手く働かない場合は、溜まった廃液を排出することが出来ません。
(写真 30)を参考にタンク内の廃液を廃棄して、タンク及び廃棄弁を洗浄してください。
- ④ 安全センサーが働いた場合、そのまま続けて使用することが出来ません。
その場合は、本体横のメインSWを一旦OFFにしてから再度ONして下さい。
(メインスイッチがリセット機能を兼ねています。)

【吸引機本体 各種メンテナンス ①】

(写真34)



【透明タンクのメンテナンス】

透明タンク内が汚れてくると、廃液弁にも汚れが溜まり吸引した液体が上手く排出されなくなりますので、汚れが目立ってきたら透明タンクを洗浄してください。

《透明タンク着脱方法》

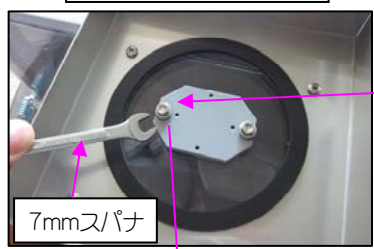
- ① 廃棄用バケツを外す。
- ② 左右の固定フックを解除します。
- ③ ハンドルをしっかり持って、手前方向にスライドさせて取り外します。
- ④ 水道水等で内部や廃液弁部をきれいに洗浄してください。
(廃液弁部の洗浄は別項目参照)
- ⑤ 取り付ける場合は①～③の逆の順序で取り付けして下さい。

注意

底部に少し廃液が残留している時があります。透明タンクを取り外す時、その残留液が廃液弁よりこぼれない様にご注意ください。

(写真35)

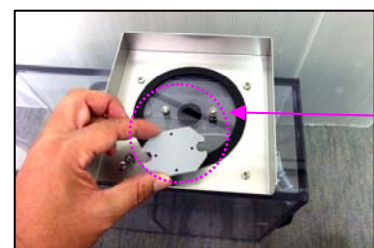
透明タンクの底部



①どちらか片方のネジを外します。
注意
取り付ける時は必ず工具を使用してしっかりと締め付けて下さい。



緩み防止ナット
ワッシャ
ネジ



②廃液弁を外して弁側・本体側の両方を洗浄します。

【廃液弁のメンテナンス】

- ① 廃液弁を止めているネジのどちらか片方を外します。
- ② 外した廃液弁を、Oリングが外れて紛失しないように注意しながら、きれいに洗って下さい。

注意

- ① 外れたOリングをはめる場合は、均等にしっかりとめ込んで下さい。
- ② 廃液弁を取り付ける場合は、必ず工具等を使用してネジをしっかり締め付けて下さい。締め付けが不十分ですと振動により廃液弁が外れ落ちてしまい、吸引力が極端に弱くなってしまいます。



注意
洗浄時Oリングを紛失しないようにご注意下さい。

【吸引機本体 各種メンテナンス ②】

(写真36)

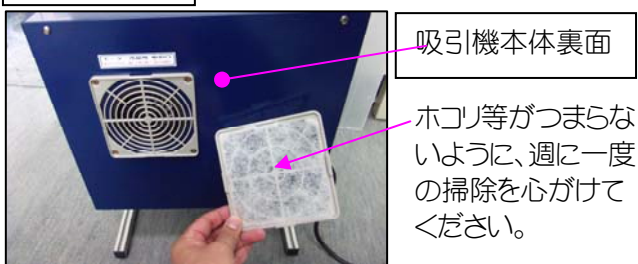


【気液分離装置のメンテナンス】

気液分離装置部分に汚れが付着していると、吸引力が弱くなったり、モーターに負荷が掛かったりしますので、分解洗浄して下さい。

- ① 蝶ネジを緩めるとストッパー金具が回り、ステンレスケースとメッシュが取り外せます。
- ② 取り外したステンレスケースとメッシュを、水道水等で洗浄して下さい。
- ③ 取り付けは逆の順序で行ってください。

(写真37)



【冷却口フィルターのメンテナンス】

本体裏面に設けてある、モーター冷却用空気取り入口部フィルターが目詰まりすると、モーターの冷却効率が悪くなり、最悪の場合モーターの焼く付きを起こす場合がありますので、週に1度の掃除をお願いいたします。

(モーター焼付の原因になります。)

保証期間内でも保証対象外になります。)

【吸引機本体 各種メンテナンス ③】

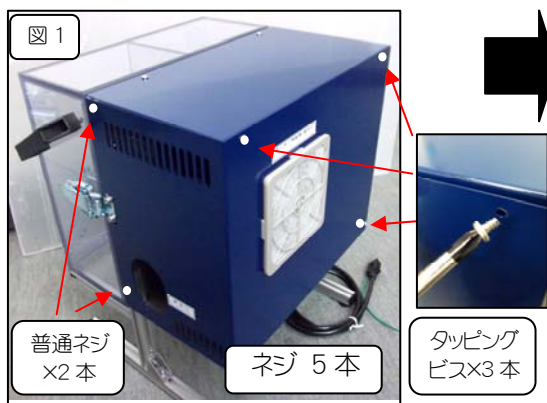
【カーボンブラシ 交換図】

吸引機本体が動かなくなった場合は、吸引機本体内部のモーターに付いているカーボンブラシの消耗が考えられますので下記の説明を参考にカーボンブラシを交換して下さい。

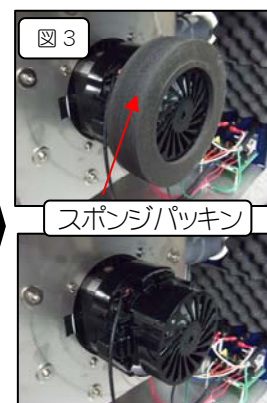
※ カーボンブラシを交換する前に下記の事項をチェックして下さい。

- ① 本体スイッチのON/OFF (吸引機本体側面に付いているスナップスイッチがONになっているか)
- ② フットスイッチの不良 (吸引機本体から出ている黒い電源コードを、フットスイッチを通さずに100Vのコンセントに直接差し込んで、吸引機本体が動けばフットスイッチの不良です)
- ③ ヒューズ切れ (吸引機本体側面に付いている15アンペアのヒューズが切れていないか?)

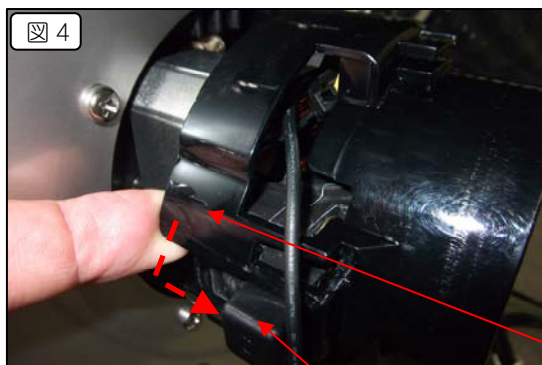
カーボンブラシを交換する場合は、必ず電源プラグを抜いてから作業を行って下さい。



① (図1)の5箇所のネジを外すと、L型のふた部分が取り外せて、モーター本体が見えてきます。(図2)



② モーター本体の上部に付いているスポンジパッキンを取り外します。

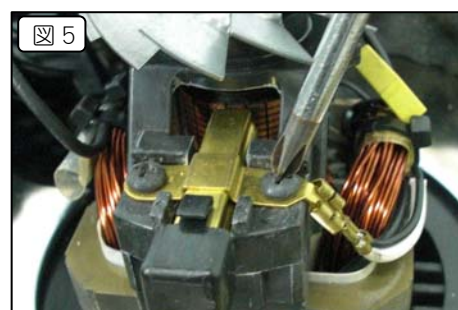


手前へ引きながら上へ押し上げる。

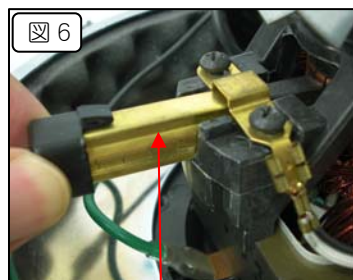
カーボンブラシ

プラスチックカバー

③ プラスチックカバー下部を指で外方向に引きながら押し上げるとカバーが外れます。(反対側の部分も同じように外します)



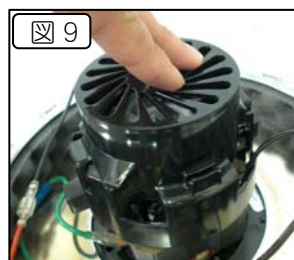
④ カーボンブラシを押えている金具を、+ドライバーを使用して緩めてカーボンブラシを外し交換して下さい。



カーボンブラシホルダーごと交換する



⑤ カーボンブラシを押えている金具を、+ドライバーを使用してしっかり締める。



⑥ コードを挟まないように注意しながらプラスチックカバーを閉めます。

⑦ 図3を参考にして必ずスポンジパッキンを取り付けます。

17 ⑧ 図1を参考にL型のふたを取り付けます。

故障かな?と思う前に・・・(バキュームシステム編)

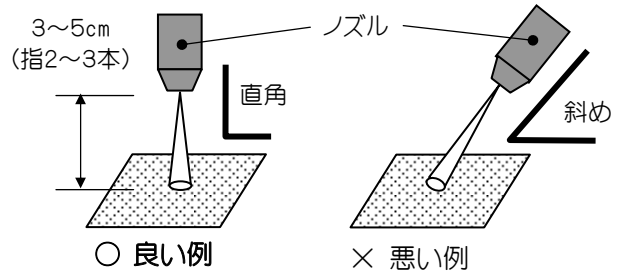
症 状	原 因	対 処 法
バキュームが動かない	本体側のメインスイッチがoffになっていませんか? 吸引カコントロールBOXは接続されていますか? ヒューズがきれていませんか? 吸引した液体が満タンになって、液体センサーが作動してないですか?	→吸引機本体のSWはONにしたまま、フットSWにてON/OFFします。(写真 31 を参考) →吸引カコントロールBOXが接続されてないと吸引機本体は動きません。写真 31 を参照に接続して下さい。 →(写真 31)を参照。 →液体センサーが作動した後は、一度メイン SW を OFF/ONして安全装置をリセットさせないとバキュームは動きません。(写真 31)を参照。
	フットスイッチが故障していませんか? フットスイッチの配線が間違っていないですか?	→吸引機本体の電源コードを、フットスイッチのコネクターを通さずに直接コンセントに差し込んで下さい この状態で動くようでしたら、フットスイッチの故障又は配線不良が考えられますので、フットスイッチを交換または配線チェックして下さい。 (ナショナル まごの手フットスイッチ)
	カーボンブラシが接触不良又は消耗していませんか?	→上記確認をしても動かない場合はカーボンブラシの接触不良又は消耗が考えられますので付属のカーボンブラシと交換又は点検してください。 (説明書は付属のカーボンブラシに同封) 接触不良の場合は、別紙説明書を参考にしてカーボンブラシを一度取り外して、ブラシホルダー内部のカーボンのカスをエアで吹き飛ばすか、掃除機等で吸い取ってからカーボンブラシを取付けて下さい。
バキュームの吸引力が弱い	気液分離装置が目詰まりしていませんか? 透明タンク下部の廃棄弁は、正常に機能していますか? 吸引カコントローラーが弱くなっていませんか?	→(写真 36)を参考に、気液分離装置を掃除して下さい 汚れがひどい場合は交換をお勧め致します。 →振動等により取り付けネジが緩んで、廃棄弁が落下等して廃棄弁が上手く作動していないと、透明タンク内の真空が保たれずに吸引力が極端に弱くなってしまいます。 (写真 35)を参考に確認・取り付け洗浄して下さい。 →(写真 33)を参考にコントローラーを調整して下さい。
モーターが動いているのに吸引しない	吸引のホースが外れていませんか?	→(写真 31)を参考に、本体と吸引台をしっかりと接続して下さい。
ドライヤーが動かない	ドライヤー本体のスイッチがOFFになっていませんか?	→グループではさまれているドライヤー本体のグループ部のスイッチをONにして下さい。
	フットスイッチが故障していませんか?	→(写真 31)を参考に確認して下さい。 ドライヤースタンドから出ている電源コードを、フットスイッチのコネクターを通さずに直接コンセントに差し込んで下さい。 この状態で動くようでしたら、フットスイッチの故障が考えられますのでフットスイッチを交換して下さい。 (ナショナル まごの手フットスイッチ)
	ドライヤーが故障していませんか?	→ドライヤースタンドのグループよりドライヤーを取り外して、直接コンセントに差し込んで動かなければドライヤーの故障が考えられますので交換して下さい。 (市販のヘアードライヤーでOKです)
ドライヤーの温風が出ない	ドライヤー本体のスイッチがCOOLになっていませんか?	→HOTに切り替えて下さい。
	ドライヤーのヒーターが切れていませんか?	→センサーが働いて、一時的に切れる場合がありますが、しばらくすると直ります。時間が経っても直らない場合はヒーターの断線が考えられますので、新しいものと交換して下さい。 (市販のヘアードライヤーでOKです)

この度は、シルクビートガンをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
 末長く御愛用頂くために、下記の使用法をよくお読みの上、正しくご使用下さいますようお願い致します。

◎ 角度及び距離性 (図1)

生地より3~5cmほど離して、また生地に対して液が垂直に当たるようにしてご使用下さい。生地に対して液が斜めに当たったり、生地との距離が近すぎたりすると、生地よれ等の原因にもなりますので、ご注意下さい。

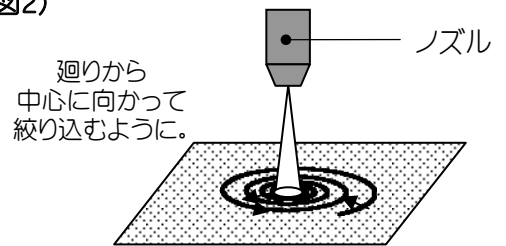
(図1)



◎ 手順 (図2)

シミ、汚れの中心からいきなり処理すると、シミ、汚れが周りに広がる場合がありますので、汚れに対して周りから中心へ絞り込む感じに落としていく様にする、汚れが周りに広がりにくく、効率のよい、しみ汚れ落としが出来ます。

(図2)

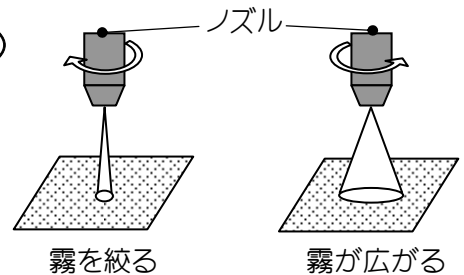


◎ ノズルについて (図3)

○ノズル本体を左右に回すことにより、霧の状態が調整出来ます。生地厚や汚れの度合い等の状況によって、調節してご使用下さい。

○シルクビートガンには、霧を絞りすぎて生地を痛めないために、調整可能なストッパーが付いています。詳しい調整の方法は別紙ノズルストッパー設定方法を御覧下さい。

(図3)



◎ 圧力調整

シルクビートガンのBOXに付いているダイヤルによって、圧力を簡単に調整することが出来ます。生地厚や汚れ度合いによって、ダイヤルを調整しながらご使用下さい。

◎ エアー部

○右手でシルクビートガン(エアー付)を持って頂くと、親指に当たる所にあるスイッチがエアー用のスイッチです。スイッチを押すことにより、エアーのON / OFF ができます。

○基本図のエアー調整ネジを回すことにより、エアーの吐出量が変わります。生地に応じて調整して御使用下さい。

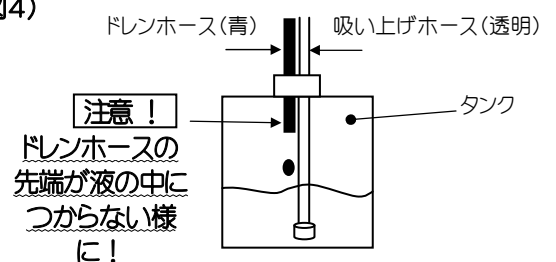
○コンプレッサーの圧力は5Kgf/cm以下で御使用下さい。5Kgf/cm以上のものを使用される場合は、減圧弁にて圧力を下げて御使用下さい。(オプション)

◎ ドレン液 (図4) (図5)

シルクビートガンはポンプ内のドレン止めOリングによって基本的にはドレン液が出ない構造になっていますが、万が一Oリングが消耗しても、ポンプ内部の特殊構造によって、ドレン液を強制排出させるようになっていますので、排出の抵抗が出来るだけ掛からないように、ドレンホース(青色)の先端が液体の中につからないようにして下さい。

又ドレンホース(青色)が途中で折れていたり、エアー弁がホコリ等で塞がれていたりすると、ドレン液が排出できなくなり、ガン内部に液が入ってしまう可能性がありますのでご注意下さい。(ドレン液が多量に出るようになった場合は、念の為ドレン止めOリングを交換してください。)

(図4)



◎ コントロールBOX

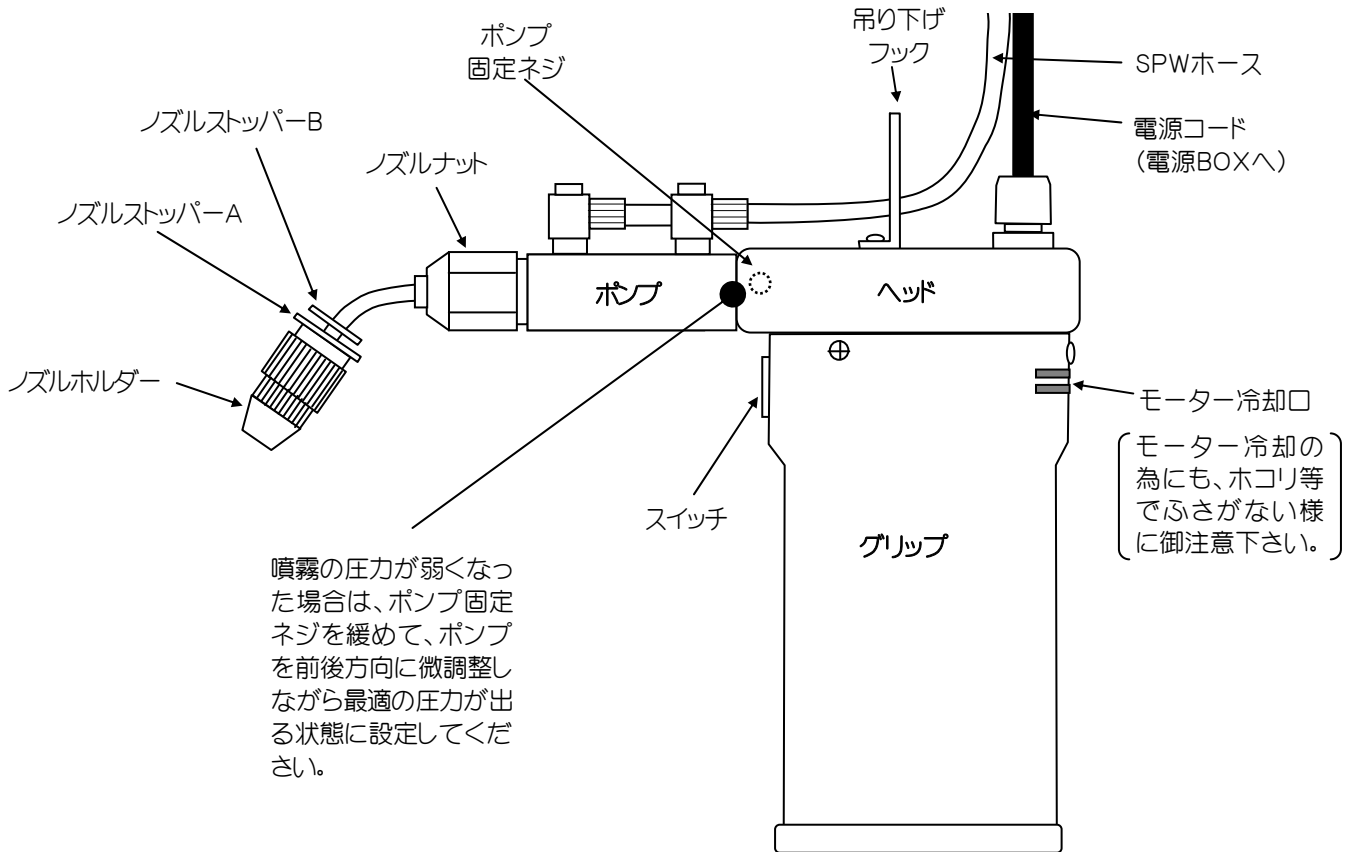
コントロールBOX側面のDC Inコネクタ(2箇所)に、付属の変圧器を必ず2個共接続し、100V電源へ差し込んで下さい。2個接続しないとガンが正常に動作しなくなります。

シルクビートガンのコントロールBOXには、内部に異常が発生すると安全装置が働き、自動的に電源をカットする機能が付いています。安全装置が働くとパネル前面のアラームランプが点灯しますので、その場合はRESETスイッチを押してください。

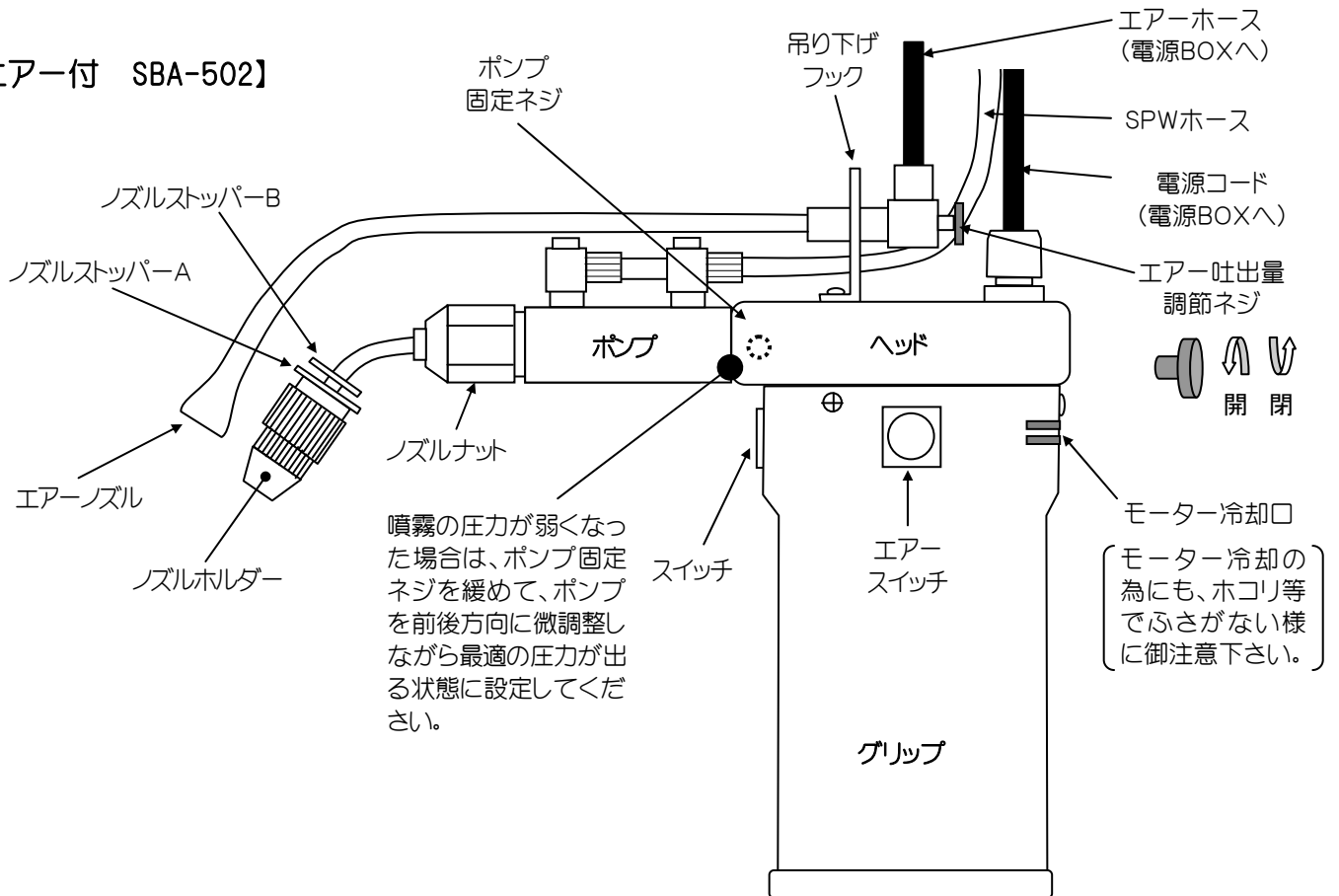
(何度もアラームスイッチが点灯する場合は、内部の故障が考えられますので、お手数ですが販売店等に御連絡下さい)

【シルクビートガン 基本図】

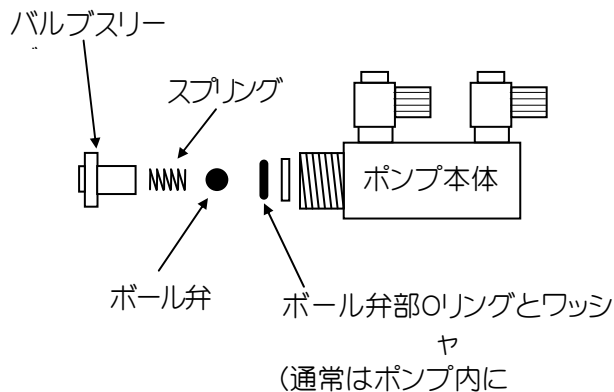
【エア無し SB-302】



【エア付 SBA-502】



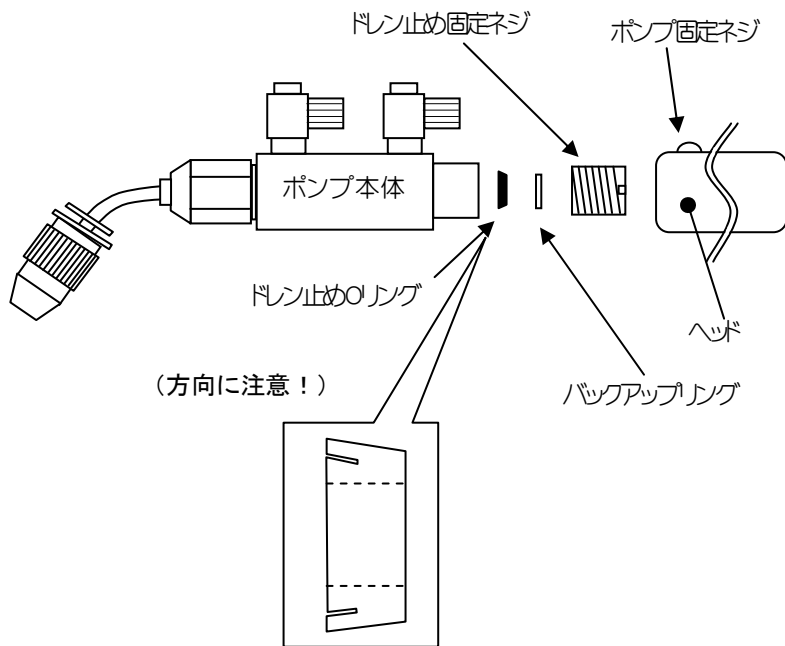
ポンプ内ボール弁 分解図



液が上がらない又は液が下がってしまう場合はボール弁部のごみ付着等が考えられますので、左図を参考にして、ごみを取り除いて下さい。

- ① ノズルナットをゆるめてノズルユニットをポンプ本体より外して下さい。
- ② ポンプ先端よりバルブスリーブを外して下さい。
- ③ ポンプ中にスプリング & ボール弁が残っているようでしたら、それらを取り出して、ボール弁に付着している異物等をきれいに取り除いて下さい。
- ④ 念の為、ポンプの中も綿棒で掃除して下さい。
- ⑤ ボール弁部Oリングは基本的にはポンプ内に入り込んでいるものですが、状況によっては細い棒状のようなもので取り出して、内部も掃除して下さい。
- ⑥ ①～③の逆の順で組んで下さい。

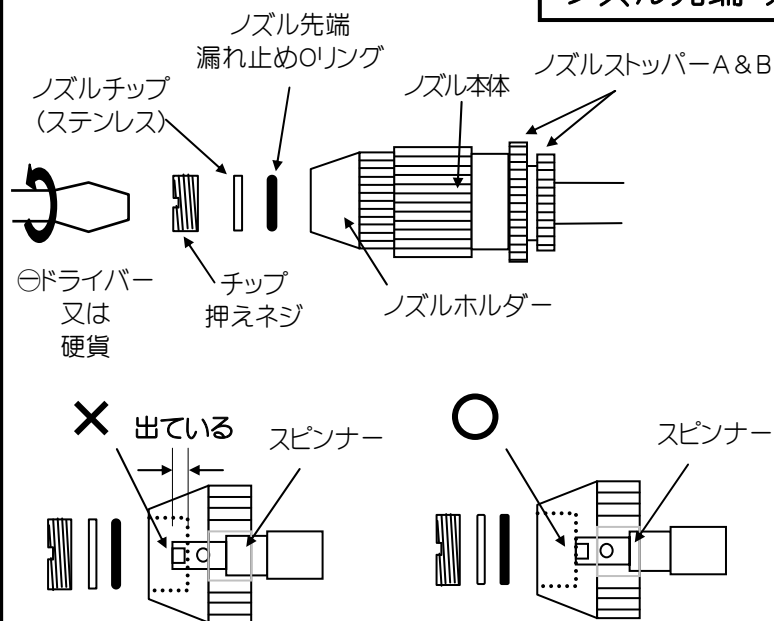
ドレン止めOリング交換図



ドレン液が多量に出る場合は左図を参考にして、ドレン止めOリングを交換して下さい。

- ① ポンプ固定ネジを2箇所緩めて、ヘッドよりポンプ本体を引き抜いてください。この時念の為ヘッドとポンプ本体との隙間の距離を確認しておいて下さい。(Oリング交換後に組み立てる時、この隙間の距離を覚えておく調整時に便利です) (基本図のガン本体図参照)
- ② マイナスドライバーでポンプ本体内部のドレン止めネジを取り外して下さい。
- ③ ポンプ内部に入っているバックアップリング及びドレン止めOリングを取り外して下さい。
- ④ 新しいドレン止めOリングを変形しない様に注意しながら、先の丸いような細い棒等でポンプ本体内部に挿入して下さい。又方向にも注意して下さい。少し広がっている面がポンプ内部側になります。
- ⑤ 先程取り外したバックアップリングを挿入して下さい。
- ⑥ ドレン止め固定ネジをしっかり締め付けて下さい。
- ⑦ 組み上げたポンプ本体をガン本体のヘッド部分に取り付けてください。この時初めに設定していた隙間の距離にして頂ければ、最も圧力が出る状態になります。
- ⑧ ポンプ固定ネジをしっかり締め付けて下さい。

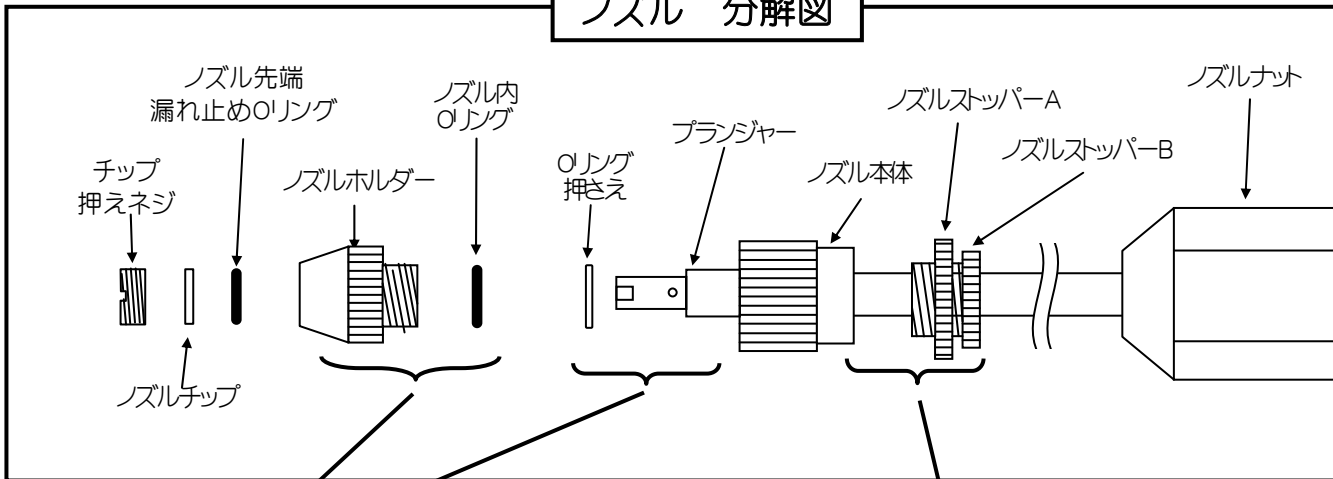
ノズル先端 分解図



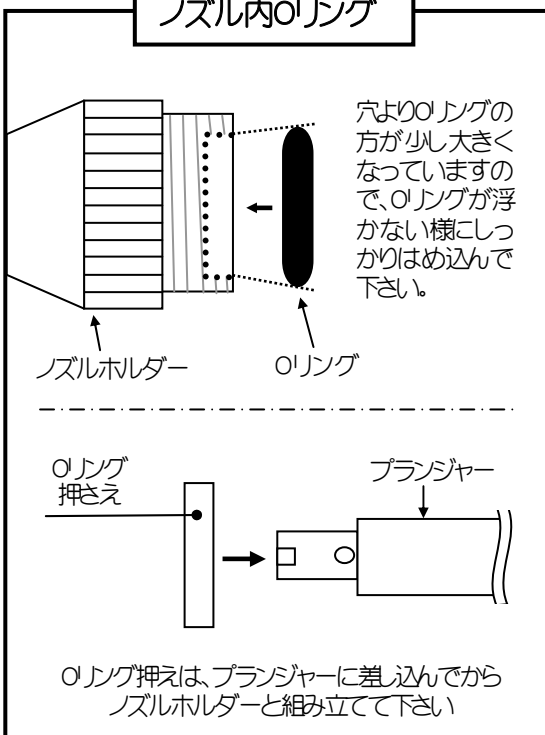
霧が割れたり、液が急に出なくなった場合はノズル先端チップにゴミが詰まった可能性がありますので、左図を参考に分解して頂き、異物を取り除いてください。

- ① ノズル本体を、霧を絞る状態方向に回します。
- ② ノズルホルダーをしっかりと固定して頂き、チップ押えネジの先端よりOドライバーや硬貨等でネジを緩めて外してください。
- ③ ノズルチップ・ノズル先端パッキンを取り出し、ノズルホルダー内のゴミを綿棒等を使用して取り除いて下さい。穴が詰まっている場合は、針などで穴を傷めない様にして取って下さい。
- ④ 左図を参考にして、ノズル本体を霧を絞る状態方向に回して、パッキン・チップを入れて押えネジで締め付けたとき、プランジャーがノズル先端パッキンに干渉しない事を確認しながらチップ押えネジをしっかりと締め付けて下さい。

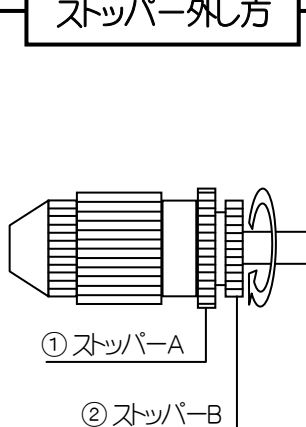
ノズル 分解図



ノズル内Oリング

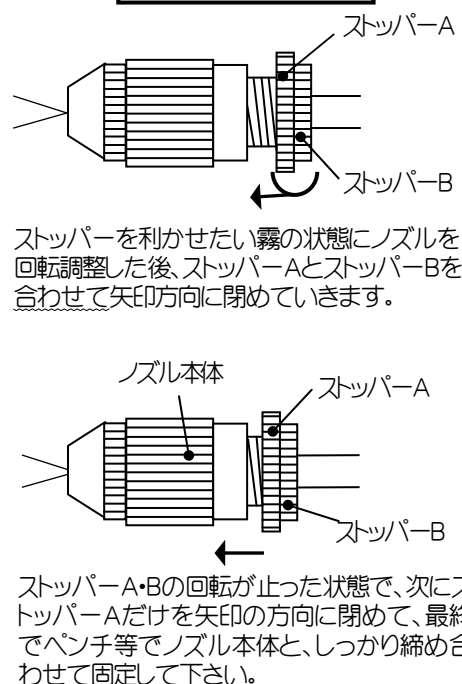


ストッパー外し方



- ① ストッパーAを緩めてから
- ② ストッパーBを外します。

ストッパー設定



故障かな？ と思う前に・・・(シルクビートガン編)

症 状	原 因	対 処 法
☆モーターの回転数が落ちる！	★使い始めは機械各部が慣れていない為 回転が上がりにくいことがあります ★ご使用の液に粘度がありませんか？	◎液を通さずに15～20秒カラ打ちして下さい。 ◎粘度の少ない液をご使用下さい。
☆コントロールBOXの電源が入らない！	★コンセントが抜けていませんか？ ★ヒューズが切れていませんか？ ★変圧器の接続が1台ではないですか？	◎コントロールBOX背面のヒューズを交換してください。(2アンペア) ◎1台の接続では電気容量が足りません。必ず2台共接続してください。
☆コントロールBOXの電源は入っているのに、シルクガンが動かない！	★BOXとシルクガンのコードが確実に接続されていますか？ ★ノズルの穴がふさがっていませんか？ ★アラームランプが点いていませんか？	◎接続部を確認してください。 ◎ノズル分解図を参考に、ノズルホルダー内やノズルチップ部の異物を取り除いてください。 ◎一度主電源をOFFにして3秒程してから再度電源をONして下さい。(リセット機能) <u>(繰り返しアラームが点灯する場合は、BOXまたはガン本体の異常が考えられます。ご使用をお止め頂き販売店様又は当社にご連絡下さい。)</u>
☆霧の方向が急に変わる、霧が割れる ☆ノズルの繋ぎ目から液漏れがする！ ○ノズルナットの部分 ○ノズル先端部分 ○ノズルストッパーの部分	★ノズルの中に異物が入ってませんか？ ★ノズルナットがしっかり締まっていますか？ ★チップ押さえネジがしっかり締まっていますか？ ★ノズル本体とノズルホルダー間がゆるんでいませんか？ ★ノズル内Oリングが消耗していませんか？	◎ノズル先端分解図を参考に、ノズルホルダー内の異物を取り除いてください。 ◎14mm スパナ等でポンプ本体にしっかり締めつけて下さい。 ◎ノズル先端分解図を参考に、一度チップ押さえネジを緩めて、プランジャーの状態を確認してからOドライバー等でしっかり締め付けて下さい。 ◎ノズル本体とノズルホルダー間を2本のペンチ等でしっかり締めて下さい。 ◎ノズル分解図を参考に、ノズル内Oリングを交換してください。
☆液が上がってこない！	★ノズルの穴がふさがっていませんか？ ★ポンプ内ボール弁にごみがついていませんか？	◎ノズル内の異物を取り除いてください。 ◎ポンプ内ボール弁分解図を参考に、ゴミを取り除いて下さい。
☆液が下がる！	★ポンプ内ボール弁にごみがついていませんか？ (ポンプ内の真空が保たれずに液が下がってしまいます。) ★ホースの何処かで穴が開いていませんか？ (ポンプ内の真空が保たれずに液が下がってしまいます。)	◎ポンプ内ボール弁分解図を参考に、ゴミを取り除いて下さい。 ◎ガンを打っている状態で、ホース内に気泡が発生している箇所があるようでしたらホースを交換してください。
☆水圧が弱くなった！ ☆液が出なくなった！	★コントロールBOXの圧力調整ダイヤルが動いていませんか？ ★ポンプの位置が動いていませんか？	◎コントロールBOXの圧力調整ダイヤルを確認して下さい。 ◎基本図を参考に、ポンプの位置を調整して下さい。
☆ポンプとヘッドの継ぎ目より液が出てきた！	★ドレンホース先端が液の中に入っていないですか？ ★ドレンホースが途中で折れていませんか？ ★エア弁にゴミがたまって塞がっていませんか？	◎ドレン液が出やすいようにホース先端は液中に入らないようにして下さい。 ◎エア弁等でエア弁部のゴミ等を掃除して下さい。
☆エアが出ない ☆エアが止まらない	★エア吐出量調節ネジが閉まっていますか？ ★エアの圧力が5Kgf/cm 以上に上がっていませんか？	◎基本図を参考にエア吐出量調節ネジを開けて下さい。 ◎コンプレッサー本体で減圧できない場合は弁等を使用して5Kgf/cm 以下に下げてください。

警 告

- ☆ 引火性のある液は危険ですので、ご使用にならないで下さい。
- ☆ シルクビートガンの噴霧液は高圧力ですので、お子様が誤って手の触れる事のない様御注意下さい。
- ☆ ノズルの先を人の顔などに向けないように、御注意下さい。
- ☆ シルクビートガンは精密機械なので、指定箇所以外は絶対分解等しないでください。
- ☆ シルクビートガンは精密機械なので、指定箇所以外は絶対分解等しないでください。
又指定箇所の部品交換時は必ず電源プラグを抜いてから行って下さい。